

第 8 期介護保険事業計画策定に向けての実態調査について

1. 概要

(1) 調査目的

第 8 期介護保険事業計画（令和 3 年度～5 年度）策定のための基礎資料とするとともに、神戸市の今後の高齢者施策の参考資料とするため、高齢者の実態調査を実施する。
（3 年毎の調査）

(2) 調査種別

①要介護認定を受けていない 65 歳以上の方を対象とする「健康とくらしの調査」（高齢者一般調査）

※1：「健康とくらしの調査」は、日本老年学的評価研究（JAGES）プロジェクトとの共同調査（調査項目は全国統一項目と市独自項目で構成。なお、全国統一項目は調整中であり、今後変わる可能性あり）

※2：また、JAGES がスポーツ庁より事業委託を受け、プロスポーツのホームスタジアム・アリーナ周辺住民の方の健康への影響を検証する調査も合わせて実施。

②要介護認定を受けている 65 歳以上の方を対象とする「在宅高齢者実態調査」

③施設入所者及び施設を対象とする「施設入所者調査」

(3) 実施時期

①「健康とくらしの調査」・・・令和元年 12 月～令和 2 年 1 月頃

②「在宅高齢者実態調査」、③「施設入所者調査」・・・令和 2 年 1 月頃

2. 調査の方向性

・フレイル対策や認知症「神戸モデル」の周知度、外国人に関する介護人材、ボランティアポイントへの関心、終末期の対応、災害への備え等に関する設問を、3. のとおり新たに設定する。

・身体状況、日常生活の状況、地域との関わり合い、家庭の状況、介護サービスの利用状況、ボランティア、住まいの希望、介護者の状況、施設での取り組み状況、施設入所者・退所者の状況等については、経年対比上、前回と同様、引き続き調査する。

3. 調査内容（主な新規項目） ※【市】は市の独自項目

①介護予防

・フレイルについての周知度（健康とくらしの調査【市】、在宅高齢者実態調査【市】）

・通いの場（サロン）における役割と活動別の 1 ヶ月あたりの時間（健康とくらしの調査）

・スポーツの実施状況、観戦、イベントの参加（健康とくらしの調査）

②認知症

- ・認知症「神戸モデル」の周知度（健康とくらしの調査【市】、在宅高齢者実態調査【市】）
- ・認知症サポーター養成講座の受講（健康とくらしの調査）

③介護人材

- ・施設での外国人介護職員の状況（施設入所者調査【市】）
（受入人数・在留資格の内訳・国籍・受入を検討していない理由）
- ・介護ロボットやICTの導入状況（施設入所者調査【市】）

④ボランティアポイント

- ・ボランティアポイント制度への関心（健康とくらしの調査【市】、在宅高齢者実態調査【市】）

⑤終末期の対応

- ・自由に意思決定ができなくなったときに備えて、自分の医療・療養に関する方針を誰に決めてほしいか（健康とくらしの調査）

⑥ひきこもりの状況

- ・同居家族のひきこもり状況（健康とくらしの調査【市】）

⑦災害への備え

- ・災害時に避難勧告を受けて、早急に避難するかどうかの意思確認（健康とくらしの調査）
- ・災害時に備えた安否確認や集合場所について事前の話し合い（健康とくらしの調査）
- ・災害時の助け合いのための計画づくりを行う会への参加状況（健康とくらしの調査）

⑧その他

- ・図書館、本屋・書店の利用頻度（健康とくらしの調査）
- ・過去3年間で転居した経験（健康とくらしの調査）
- ・救急車の利用（健康とくらしの調査）
- ・医療費の負担感や治療の満足度、かかりつけ薬局等（健康とくらしの調査）
- ・年齢を理由にまわりから受けた扱い（健康とくらしの調査）
- ・腰とひざの痛み（健康とくらしの調査）